

令和3年6月定例会会議録

(令和3年6月28日)

八代市教育委員会

八代市教育委員会 6 月定例会会議録

- 【開催日】 令和3年6月28日（月）
- 【場所】 八代市千丁支所2階 庁議室
- 【出席者】 北岡 博 教育長
富田 壽人 教育委員
松永 松喜 教育委員
水田 千春 教育委員
奥村 留美子 教育委員
- 【出席職員】 中 勇 二 教育部長
橋口 幸雄 教育部次長
福本 桂三 教育部次長
松川 由美 教育部理事兼教育政策課長
高嶋 宏幸 学校教育課長
竹下 圭一郎 教育施設課長
田中 智樹 教育部理事兼生涯学習課長
入佐 正夫 教育サポートセンター所長
松村 哲治 博物館未来の森ミュージアム副館長
加賀 真一 学校教育課審議員
丸山 尊司 文化振興課長
米崎 寿一 文化振興課長補佐兼文化財係長
山内 淳司 文化振興課参事
- 【事務局】 草野 弥生 教育政策課教育政策係長
西村 妙子 教育政策課参事
- 【審議事項】 <議案案件>
- ①八市教委議第10号 八代市文化財保護委員会委員の委嘱について
 - ②八市教委議第11号 八代干拓遺跡群」(仮称)の史跡指定に係る意見具申について
 - ③八市教委議第12号 八代市学校運営協議会委員の委嘱又は任命について
 - ④八市教委議第13号 八代市外国語指導助手の任用に関する規則の一部改正について
- <報告案件>
- ①報告第12号 八代市議会令和3年6月定例会について

- ②報告第13号 令和3年度6月補正予算の概要について
- ③報告第14号 第2期八代市教育振興基本計画の進行管理について
- ④報告第15号 第2回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について

1. 開会 (午後1時57分 開会)
2. 会議録の承認 令和3年4月定例会、5月定例会
3. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告
4. 議題
〈八市教委議第10号〉八代市文化財保護委員会委員の委嘱について

丸山文化振興課長 現在委嘱している八代市文化財保護委員会委員の任期満了に伴い、新たに委員を委嘱する。任期は、令和3年8月1日から令和5年7月31日までとする。

質問等なし

【議案第10号 承認】

〈八市教委議第11号〉「八代干拓遺跡群」(仮称)の史跡指定に係る意見具申について

丸山文化振興課長 高島新地旧堤防跡、大鞆樋門群、旧郡築新地甲号樋門及び郡築二番町樋門の4遺跡を八代干拓遺跡群と位置付け、国指定史跡による保護を図るため、文部科学大臣へ意見具申する。

奥村教育委員 干拓遺跡の活用とは、どのようなことか。

米崎文化振興課長 現地を整備して、説明板・ガイダンスを設置し、見学に訪れた人たちが視覚的に確認できやすいようにする。またソフト的な面では、ガイド協会と連携をとって、案内ガイドの育成、周遊するルートの設定を行うことなどを今後検討していきたいと考えている。

水田教育委員 説明板の設置とあったが、ただ置いておくだけだと、だんだん廃れて何が書いてあるかわからないということにもなりそ

うなので、訪れた方がスマートフォンを活用して、昔の映像やきれいな映像を見られるという状況に今後なればいいのではと思う。

富田教育委員 高島の旧堤防や樋門の周辺は、現在、雑草が生い茂っている。これから手入れを行っていくのか。

米崎文化振興課長 課題として捉えている。所有者、占有者と連携して行う。高島
補佐兼文化財係長 島の旧堤防は、道路沿いであるため目につきやすい。今後の活用というところで草刈りを定期的に行わないといけないと考えている。ガイドの表示の仕方も、文化財保存整備事業という国の補助事業の活用も見込まれるので、ARやQRコードを読み込んで、多言語の説明をスマートフォンやタブレット経由で聞けるなど、連動して検討に入っていきたい。

富田教育委員 道路沿いの高島の旧堤防は、駐車場がない。見に来てでも駐車場がなければ素通りになってしまう。指定するのであればそこまで考えないとたくさん来られないのではないかと思う。

米崎文化振興課長 これも課題となっている。現存の堤防や樋門は道路に面して
補佐兼文化財係長 いるところが多いので、周辺地域の協力を得るなど、整備の計画を作っていきたいと考えてる。早急に解決できるかどうかかわからないが、検討課題と受け止めている。

奥村教育委員 遺跡や史跡の保存・活用は、見に行くと懐かしいと思うのと同時に、将来に残すという大きな意味がある。今の子供たちが関心を持って、今から先につながるような意味の視点観点をどこかに持っておいていただくとありがたい。

松永教育委員 今言われたように、子供たちもちろんだが、一般の人へのPRもお願いしたい。知っているようで知らない人が多いので、できるだけ宣伝してもらいたい。

【議案第11号 承認】

〈八市教委議第12号〉 八代市学校運営協議会委員の委嘱又は任命について

高嶋学校教育課長 太田郷小学校、有佐小学校、泉第八小学校、第七中学校及び八代支援学校に学校運営協議会を設置するに当たり、学校長から推薦された学校運営協議会委員について、委嘱又は任命す

る。任期は、令和3年7月1日から令和4年3月31日までとする。

質問等なし

【議案第12号 承認】

〈八市教委議第13号〉八代市外国語指導助手の任用に関する規則の一部改正について

高嶋学校教育課長 令和3年度に再度の任用に係る期間の上限が到来する外国語指導助手の任期等について特例を定める。

質問等なし

【議案第13号 承認】

〈報告第12号〉 八代市議会令和3年6月定例会について

中教育部長 6月15日、16日に行われた一般質問については、議員7人のうち2人の議員から教育部に対し質問があった。

西濱和博議員から、改正バリアフリー法が今年4月に施行され、公立学校施設の新築についてバリアフリー化が義務化されたことに関連して、本市のバリアフリー化の状況についての質問があった。これに対し、これまでに取り組んできた内容と本市、国の整備率についてお答えした。概ね本市が国を上回っており、屋外部分の段差解消の整備率は、本市は100%である。また、既存施設にも積極的に推進する必要があると思うがどのように考えているかとの質問に対し、文部科学省でも学校施設バリアフリー化推進指針を改定して、重要性が示されていることから、本市も様々な角度から考慮して整備を推進していく必要があると認識しているとお答えした。さらに、バリアフリー化を進めるために整備計画の策定が必要と思うが教育長の考えはどうかとの質問に対しては、文部科学省の指針に照らして計画策定に取り組むとともに策定の手法については、研究、検討していくとお答えした。単独でバリアフリー化の計画を策定するとなると他の計画との整合性もあるので、施設整備の総合的な計画の中に盛り込むということを文部科学省からも示されていることから、そのことも含んでお答えした。

野崎伸也議員から、昨年6月に質問があったGIGAスケー

ル構想事業について、その後のオンライン学習の進捗状況、モバイルルーターの貸出し状況についての質問があった。学校でのインターネットを活用した具体的な事例を紹介し、また、学校と家庭をつないだオンライン学習の実施に向けては、今後各家庭の通信環境についての調査、接続テストをできるだけ早い時期に実施したいと考えているとお答えした。また、モバイルルーターの貸出しについては、希望された38世帯に貸出しを行っている状況をお答えした。また、整備後の現状の課題として、導入端末をLTEにしなかった理由、充電保管庫の使いづらさへの対応、教職員の人材育成状況及び協定締結団体等との連携について質問があった。導入する端末をLTEにしなかった理由については、試算した通信費が年間6億円と後年度の負担になること、学校内のネットワーク環境整備については、国からの補助が見込まれたからであること、充電保管庫については、やりやすい対応策について学校に通知していること、また、教職員への研修会を5月と6月に計4回開催し、各学校で、学校内のリーダーとなるチームを編成してもらい、117人が受講したこと、熊本高等専門学校と宮嶋利治学術財団と連携をし、夏休みに実施するプログラミングコンテストと、それに向けてのサポートとして、プログラミング教室を計画していることについてお答えした。さらに、今回整備した経費の総額についての質問に対し、タブレットの購入経費、保守料、ネットワーク環境整備など総額11億円であること、今後端末を更新するときの経費の質問に対しては、リースした場合、保守料を含めて8億3千万円程度かかるとお答えした。ICT教育のさらなる推進に向けての取り組みについてどう考えているのかという質問に対しては、EdTech推進基本方針・基本計画を策定中で、市全体の計画と歩調を合わせながら進めたいとお答えした。

次に、くま川教室の施設の老朽化について現在の状況、施設更新に向けた取組状況についての質問があり、利用者数のここ3年間の推移、指導員等の職員体制、保護者へのケアの取組、施設整備の取組としてエアコンの設置、ICT教育への対応を行っていること、施設の更新については、引き続き調査検討を続けており、引き続き今後も教育活動を充実させながら、施設更新に向けて取り組んでいくとお答えした。

奥村教育委員

子供たちの手元にタブレットが届いて、1月から3月まではとにかく使おう、学校から家に持ち帰る体験もしようという指導され、4月からは、学校教育目標達成のためのICT教育という

ことで本格スタートしたかと思う。コロナ禍で思うようにいかないとは思いますが、4月にスタートしてから3か月経ち、先ほど2、3校の活用事例等を議会で説明されたとのことだったが全体的には活用は進んでいるのか。

高嶋学校教育課長 学校訪問等で使っている状況を見ることができている。イーライブラリーという個別の学習進度に合わせた問題集の活用はなされている。教育推進校で行っている事例も校務ミライムという掲示板に載せて活用方法を紹介し、推進を図っている。学校間で少し差があるのは正直なところなので、校長園長会議、学校訪問を通して活用を呼び掛けていきたい。

水田教育委員 タブレットについて、学校では使っているのかもしれないが、あまり学校から持ち帰っている様子ではない。コロナ禍において、感染すると長い休みをとることになるので、そういう時にはオンライン授業とか、せめて授業風景を見られるというようにできないものかと日々思っている。くま川教室においても、授業がオンラインで見られるということを進めていってもらえないかと希望している。また、くま川教室への通級を希望する小学生がこんなに少ないのかと思ったところである。

高嶋学校教育課長 ある学校においては、別室登校の子供に対し、別室で授業の様子を見ながら少しでも学級の様子を知って、復帰ということに向けた取組をされているところもある。事例を紹介しながら不登校の子供たちへの対応を進めていきたい。オンライン学習についても、ネット環境等の問題もあるが、随時、できるだけ進めていけたらと思っている。

入佐教育サポートセンター所長 くま川教室について、Wi-Fi環境を整備し、いつでも使える状況にはなっている。子供たちに関しては、学校の許可を得てタブレットを持ち帰り、くま川教室に持ってきて活用するということになる。環境は整っているがそのような状況にはまだなっていない。また、小学生の通級希望は、今年度は実際まだないところだが、今後ここ数年、数件あっているので、今年もあるだろうと予測をしながら対応していきたいと思っている。

富田教育委員 くま川教室の子供たちにとってオンラインを通じた学習が適切かどうか、疑問である。基本的に小中学校にほとんど通っていない子供に、画面を見せて○や×を選択させても、力は何

も身につかない。くま川教室だからこそ、先生たちがついて、基本から教えることが筋であると思う。そういうのを使うと、ますます遅れていくし、そのような教材を作ることも大変であると思う。

奥村教育委員

G I G Aスクール構想におけるタブレット導入というのが、何のためになのかということを中心に考えていないといけない。一番は、子供たち一人一人が主体的な学びをするための補助器具である。コロナ禍のため子供たちが相談しながら勉強することがほぼ皆無になっている。こうなって初めて、いかに子供たちがグループの中で知恵を出し合って、言ってみる、聴いてみるという活動が自分たちの力で学習をレベルアップさせていたかと実感している。直接的に子供同士で相談することは無理なので、タブレットを介して、だれがどのような考えをしているのかを知る。そういう活動が皆無になると、教師の説明的な学習が増えてしまい、子供たちは、真面目に一生懸命に聴いて丁寧にノートを取る。このエネルギーを子供たちの切磋琢磨する力で、より主体的に中身が濃いものにならないか、このときにタブレットがなんとかならないか。そして、二次的、三次的に、休校が長引いたからオンラインで、家でも学習できるようにするという使い方で、何のためにどう活用するというのを常に思い続けることが必要である。一番思うのは、子供たち同士の交流、学びの交流が厳しい状態になっているので、そこにタブレットを有効活用できないかということである。

〈報告第13号〉 令和3年度6月補正予算の概要について

福本教育部次長

6月23日に可決された主なものについて資料により説明

- ICT授業サポート事業
ICT授業サポーターの追加加配に必要な経費
- 新型コロナウイルス感染症対策事業
支援学校高等部の生徒一人当たり一台の端末整備に必要な経費
- 自治総合センターコミュニティ助成事業
施設整備に要する経費
- 新型コロナウイルス感染症対策事業
八代市公民館における感染防止対策に要する経費
- 自治公民館再建支援事業
豪雨災害により被災した自治公民館等の復旧に要する経費
- 新型コロナウイルス感染症対策事業 図書館における感染

防止対策に要する経費

- 新型コロナウイルス感染症対策事業
博物館における感染防止対策に要する経費
- 新型コロナウイルス感染症対策事業
小学校・中学校・特別支援学校における感染防止対策として
保健衛生用品の購入等に要する経費
- 新型コロナウイルス感染症対策事業
幼稚園における感染防止対策として保健衛生用品の購入等
に要する経費

〈報告第14号〉第2期八代市教育振興基本計画の進行管理について

松川教育部理事兼
教育政策課長 (資料により説明) 第2期八代市教育振興基本計画の進捗
状況を確認するとともに第3期計画を策定する際の基礎資料
として活用することを目的として、計画の進行管理を施策単位
で実施する。

松永教育委員 評価の状況だが、「予定を上回る進捗だった」のAの区分が
3件と評価が低いと思う。「概ね順調である」のBのうち1/3
くらいは、Aになるのではないかと個人的には思う。評価する
際は、あまり低く評価されず、できたときはAという評価にし
ていいのでは。努力しているのに評価が悪いのはおかしいので
はと思うので、評価の採点をもっと考えてほしいと思う。

北岡教育長 大変ありがたく思います。各課で事業を実施していく上
では、計画を立てて行っているが、計画どおりに進むこと自体が
厳しい状況になってくることもある。遅れないよう各課では努
力している。それ以上となると、予算の面があったり職員の数
が必要になったりとなかなか難しい状況だと思う。

松川教育部理事兼
教育政策課長 Aの判断基準を見て、そこまで行ってなかったのではないかと
各課で判断したのだと思う。自己評価を低く評価しがちだ
と思うので、客観的に見て、迷ったときはAにするなどできれば
いいのかと思う。松永委員から励ましの言葉をいただいたの
で、来年度に生かしたいと思う。

奥村教育委員 学校ICT環境の整備についてはAが付いている。次の学校
規模適正化こそ計画どおりに進んでいるので、Aでいいのでは
ないかと思う。逆に言うと、ほぼBとなっているが、本当はち
よっと厳しかったけど、Bにしておこうというレベルのものも

あるのではないか。評価の分割そのものを振り返る必要があるのではないか。厳正に振り返って評価はなされていると思う。きちんとAならAとして、外部市民の方が見るのであれば、Aの理由はなにか、本当にBなのかCではなかったのかも含めて今後あると思うので頑張ってください。

中教育部長

53項目中50項目が同じランクなので、そこに集中し過ぎると果たしてその評価がどうだったのかと問われるのかもしれない。来期の教育振興基本計画策定作業に入るので、現計画で取り組んできたものがどのような位置づけだったのか、実際に原案を作っていく我々がしっかり認識していかないといけないと取組を行ったものである。実際に計画したことを事務局や委員会が行ったことに関してはきちんと行ったが、成果が相当出てきたかという、どちらに着目して評価をするかで違うところがあると思うが、行っただけではなく、その効果が表れたということが一緒になるように、含めて進め方を考えて次期計画に表していけるようにしていきたい。

〈報告第15号〉第2回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について

高嶋学校教育課長

5月28日に開催した第2回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について会議録により説明

意見交換では

(1) 幼稚園教育の必要性について

- ・今の幼稚園教育の質は十分であり、統廃合も視野に入れて議論が必要ではないか。
- ・保育園と幼稚園の教育内容に差がないとうまくいかない。
- ・ただ長く預かるだけでは質の低下になってしまい、今の質を落としたくない。
- ・認定こども園になって、保育園籍が増えている。
- ・幼稚園教育の必要性とはだれにとっての必要性なのか、保護者、子供、行政（先生）の三者から整理する必要がある。「規模適正化審議会」とあるので、どれくらいの規模が子供にとって幸せではないかという答申を上げるのがこの審議会ではないか。

(2) 八代市立幼稚園に求められる機能や役割を踏まえた幼稚園教育の在り方について

- ・幼稚園はセンター的な役割を果たすため、先生方の研修は大切である。
- ・機能として、保育の質、センター的役割、親のニーズ、特別

支援教育の充実、小学校との連携等ということがある。

- ・現状はどうか、これから子供、先生たちに一番よい状態にするにはどうすればよいかというのを話し合うことであること。
- ・仮に幼稚園がなくなった場合、保育園の先生が幼稚園と同じ教育ができるようになるのは難しい。保育園やこども園のお手本になる役割が幼稚園にあること。
- ・6園あり、公立幼稚園教育に力を入れている。素晴らしい。
- ・センターとしての機能を充実させるためには先生の数が必要である。

という意見をいただいた。

事務局としては、幼稚園教育の必要性については、必要である、幼児教育のセンター的役割とそれを支える教育の質の高さが求められていると感じた。

水田教育委員

感想になるが、今の保護者にとっては、いかに長く保育を受け入れてもらえるか、質より量を取られると実感している。本当にもったいないと思う。伝わらず残念である。縮小しながらも幼稚園が素晴らしいところだといかに発信していけるか、保護者の子育ては質であって、預ける時間ではないと。八代市は、働いてない保護者もいるが、求職している申請があれば、保育園に預けられるという状況である。昔は子供が多かったので、預かれなかったと思うが保育園も残っていくためには、預からなくてはいけない。八代市の幼稚園で、3歳児の預かりが始まる時に、希望が多くて定員で切られてしまった。その時に気持ちが悪くなってしまっていて、保育園に預けられるから預けてしまおうとなったことがあると思う。これから、質を上げていくのももちろん、もっと幼稚園はこういうものだ、八代市も少し厳しい視点で、だれでも預けてどうぞということではなく考えてもらいたい。

富田教育委員

審議会委員の中に市政協力員関係の方が2名いるが、この方たちはどんな意見だったか。

高嶋学校教育課長

意見としては、預かり時間を長くすれば、この問題は解決するのではという意見もあった。第2回については、幼稚園の必要性和役割がどのようなものがあるのかという議論をしていくことになるかと話をしてもらった。市政協力員の皆さんは、規模適正化とあるので、どうなのかと、結論・答申の方を考えられている節があった。幼稚園教育の必要性は皆さんが認めてい

るところだった。

加賀学校教育課審
議員

時間的な部分が必要だろうと言われていた。周りの園長からは、質を求めるためには、時間がただ増えるだけではいけないという意見だった。どうしたら質を維持できるか、保護者のニーズは、子供の教育に関する部分なのか保護者にとってのニーズなのか、次回以降に審議できたらというところであった。

奥村教育委員

保護者にとっては、預かりがニーズだと思う。先ほどから質と量と話が出ているが、保育園も使命を懸けて適切な保育をしようと思っているが、教育をするという段階で、保育園ではそこが目標になっていないので、幼稚園にしかできない部分がある。その幼稚園の特性の中に、就学前教育はこうした形で学んで、教職員の資質能力を磨いていくというところは、幼稚園の特性で、保育所の先生は、それが難しく、幼稚園の先生の話をお聴くと、とてもためになると言われていた。9人の審議会の委員がこのデリケートな問題をよく意見交換してくださって、今まで、幼稚園も保育園も似たような所で時間が長いほうがいいんじゃないという認識から、この審議会を経て幼稚園の特性を発信してくださっていると思う。幼稚園のよさを分かり始めて、この方たちがメッセンジャーになる可能性も大きいと思うので、今後の審議会の話し合いに期待が寄せられる。今後は幼稚園の数が限られていくことは、どうしようもない現実だと感じているが、それならば、残っていく幼稚園に精一杯の機能と補助があれば、保育所に向けての研修体制の発信、センターとしての機能、今までにない機能を大きく持っていけるのではないかと思う。

5. 連絡事項

教育政策課 総合教育会議について

学校教育課 学校訪問について

教育サポートセンター くま川教室閉級式、各種研修会について

博物館 燻蒸による臨時休館について、夏季特別展覧会について

事務局 7月定例会日程確認(7/29 14:00～)

6. 会議録署名委員 の指名

富田委員・奥村委員

7. 閉会

(午後3時53分 閉会)

令和 年 月 日

署名委員

記録者
